



島田 清夏

SHIMADA Sayaka

# 島田 清夏 / SHIMADA SAYAKA

website: [www.shimadasayaka.com](http://www.shimadasayaka.com)

e-mail: [info@shimadasayaka.com](mailto:info@shimadasayaka.com)



photo: Utsuki Tsuchiya



<https://www.instagram.com/sayatarou/>

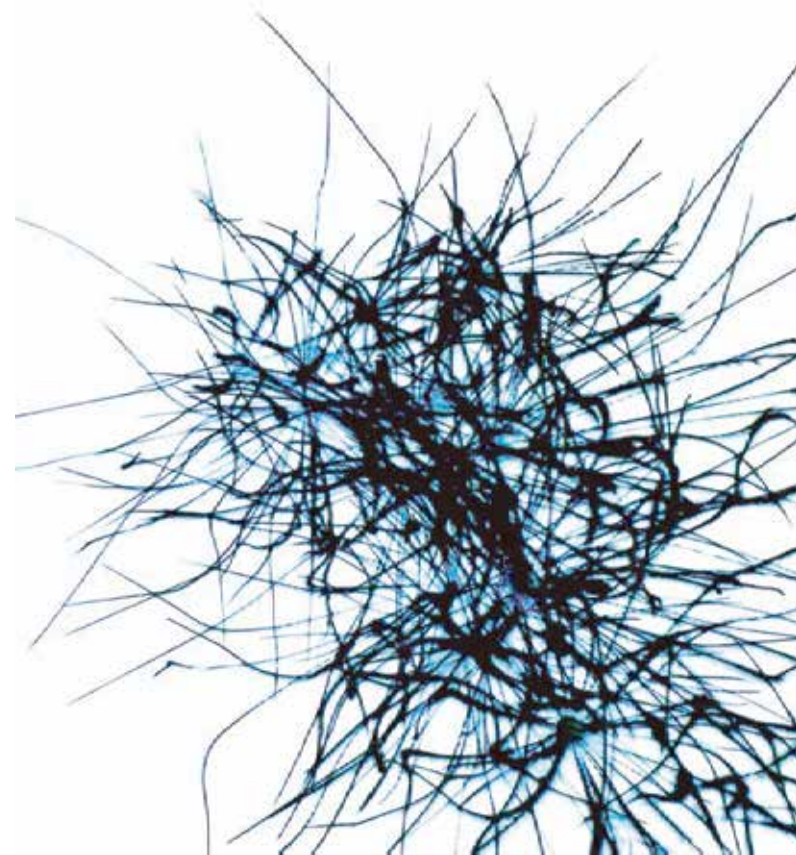


<https://www.facebook.com/sayaka.shimada>

日本大学藝術学部映画学科卒業後、短編映像を中心に作品を発表。  
「オーバーハウゼン国際短編映画祭」をはじめ国内外の映像祭で作品を発表する。  
また、学部在学中に花火と出会い、花火の持つエネルギーに魅了され、  
卒業後、(株)日本橋丸玉屋にて、花火師としても活動。  
「ハノーヴァー国際花火競技会」など、国内外の花火大会に花火演出家として参加。

社会人経験を経て、東京藝術大学美術学部先端芸術表現課修士課程に入学。  
修士在学より、花火を構成する要素、身体性、火薬学、文化や歴史的背景等を研究し、  
様々な角度で領域横断的にリサーチし、再構築することで、  
新たな気付きや問題を浮き彫りにすることを試みている。

また、2010年から2023年まで霧の彫刻家である中谷芙二子に師事。  
現在、東京藝術大学大学院後期博士課程在籍。  
花火の他、火・雷・放射線、水といった現象をモチーフにした作品を制作している。



# MAIN EXHIBITION

## Exhibition

2025 "150 年" 展, 東池袋一区画の建築群 (全 6 棟), 東池袋, 東京

2023-2024 "都市にひそむミエナイモノ展" SUSHI Tech Square, 有楽町, 東京

2022 "Culture Gate to Japan" 羽田空港第 2 ターミナル, 東京  
"ATAMI ART GRANT 2022" ホテルニューアカオ, 熱海, 静岡

2021 "次元の衝突点" 展, The 5th floor, 根津, 東京 (Collaborated with 鈴木ゆりあ)  
"Future Artist Tokyo" 展, アートフェア東京, 東京国際フォーラム

2020 "Public Divice" 展, 陳列館, 東京  
"第 12 回恵比寿映像祭 - 時間を想像する -" 恵比寿ガーデンプレイスセンター広場

2019 "平成 31 年度 東京藝術大学 卒業・修了作品展" 上野, 東京

2018 "KYOTO NIPPON FESTIVAL" 北野天満宮, 京都  
"New Japan" ソリャンカ美術館, モスクワ, ロシア  
"Shibuya Art Gate" 渋谷西武, メインエントランス, 東京

2017-2018 "Cloud ⇄ Forest" 第 7 回 モスクワビエンナーレ, 国立新トレチャコフ美術館, モスクワ, ロシア

2017 "RÊVER 2074", FIAC, グラン・パレ, パリ, フランス  
"RÊVER 2074", by Comité Colbert, 東京藝術大学美術館, 東京 (グランプリ 受賞)  
"ふたしかなその日" 陳列館, 東京

2016 "数寄フェス" 上野公園 不忍池, 東京 (Collaborated with 日比野克彦)

# 火影 HIKAGE

映像作品 / 2004, 2011 (Remake)

Data: Video 1920\* 1080, 3min11sec, Black and White, Silent

本作が映し出すのは、通常の花火が放つ鮮やかな色彩ではなく、ハイ・コントラストな黒い光の明滅である。

映像のネガ・ポジを反転させ、かつ、音を奪うことによって、花火本来の祝祭性と集合性は影を潜め、モニター上に、まとまりのない個々の爆発とその軌跡が、特異な毒々しさをもって姿を現す。



"Seize the Uncertain Day" The Chinretsukan Museum Ueno, Tokyo, 2017  
Photo: Ryohei Tomita

## Main Exhibition:

2017-2018 "Cloud ⇄ Forest" 第7回 モスクワビエンナーレ, 国立新トレチャコフ美術館, モスクワ, ロシア

2017 "ふたしかなその日" 陳列館, 東京



# ファイアー・アート “和火・寂火” FIREART “WABI/SABI”

花火パフォーマンス / 2016

Data: 花火 ( 小型煙火 ), バージ /duration: 15min

花火の持つ特性、強い光（視覚）・破裂音（聴覚）・煙（臭覚）を利用しその環境を浮き彫りにする作品。会場である上野・不忍池を1ヶ月間、ほぼ毎日環境をリサーチし、その結果から、花火の配置をデザイン。花火そのものを楽しむ作品ではなく、メディアとして強い花火を使用することでわかる風の動きや周りのビルの反響音などを通じ、会場である公園の環境を感知する作品。

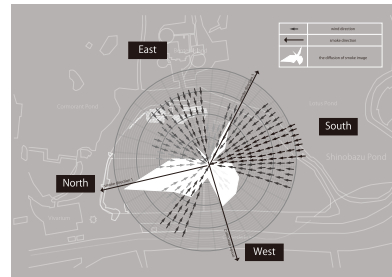
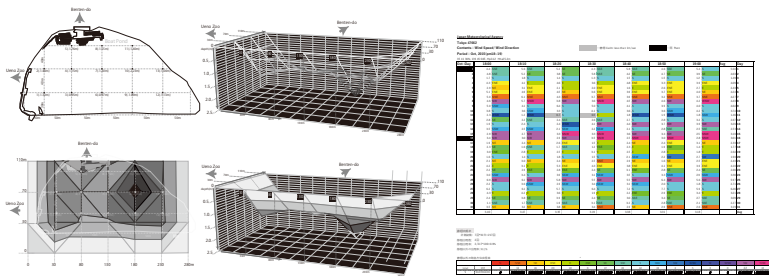


Photo: courtesy of the Moscow Biennale Foundation

## Main Exhibition:

2017-2018 "Cloud ⇄ Forest" 第7回 モスクワビエンナーレ, 国立新トレチャコフ美術館, モスクワ, ロシア / 花火スコア、映像展示

2016 "数寄フェス" 上野公園 不忍池, 東京 (Collaborated with 日比野克彦) / 花火パフォーマンス

# VOICE OF VOID ; 4600000000

インスタレーション / 2017

Date: video, photo, acrylic, peltier thermoelectric cooler, meteorite, LED

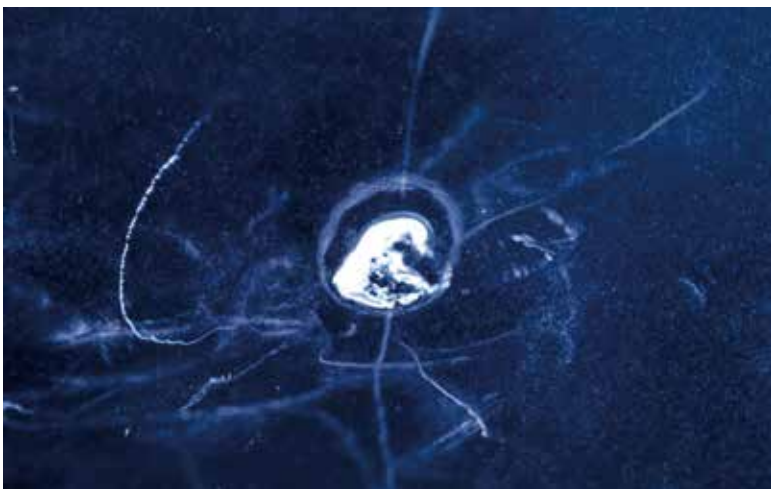
フランス・コルベール委員会が主催する「Rêver 2074」参加作品。SF小説「Noces de Diamant」(Jean Claude Dunyach 著)からインスピレーションを受け、制作した。鉱物の発する微量な放射線をキャプチャーし、その動きを人の声に変換し、鉱物の声を聞くというもの。また、放射線の軌跡を撮影した映像より、18,000 フレームの写真を書き出し、100 フレームごとに合成し「声」を軌跡で表現している。小説作中に出てくる、「霧のダイヤモンド」という隕石でできた結婚指輪を通して、主人公と彼の亡くなった妻との時間(永遠と瞬間)を放射線を使って表現した作品。



Photo: Pierre Morel © Comité Colbert



Photo: Pierre Morel © Comité Colbert



鉱石の放射線を可視化した作品の様子



写真展示の展開を変えたバージョン(ソリャンカ美術館)Photo: Ira Polyarnaya

## Main Exhibition:

2018 "New Japan" ソリャンカ美術館, モスクワ, ロシア

2017 "RÊVER 2074", FIAC, グラン・パレ, パリ, フランス

# 雷松・雷花

インスタレーション / 2018

Date: Video, 松の苗木（黒松、赤松、這松）

Arduino、PC、Monitor、Water、LED、Acrylic

北野の地は元来雷の多い土地であり、天満宮が鎮座する以前より「火雷神」として雷の神様が存在していた。  
雷放電が窒素固定を起こすことで豊かな土壌になり、五穀豊穡をもたらすことから、雷が多く鳴る年は豊作になると言われている。  
雷は恐ろしいものとされているが、一方で実りを与えるという2面性を持つ。それは私が普段扱っている花火（火薬）に似ている。

作品を試行錯誤している中、9月に京都に上陸した台風によって北野天満宮のたくさんの松が倒木したことをニュースで知る。

これを受けて、雷で松を期間中に育てる作品に急遽決めた。

雷のプロフェッショナルである株式会社フランクリン・ジャパンの協力の元、北野天満宮を中心に半径1,000km以内に落雷があるとネットワークを通してデータを取得。

落雷があるとモノクロの映像に色が付き、ある一定数落雷があると松に水が与えられ、さらに落雷があると、植物育成用のLEDが点灯、  
赤 - 青 - 紫 - と落雷の回数によって松にエネルギーが与えられる。落雷が多いほど、松が育つ。展示期間中に松が育つかどうか火雷神のみぞ知る。  
展覧会后、北野天満宮に成長した松を奉納した。



Main Exhibition:

2018 "KYOTO NIPPON FESTIVAL" 北野天満宮, 京都



# 7HX+8H4V

花火パフォーマンス /2019, 2020

Date: fireworks, fireworks ignition system, steel, aluminum, winch, motor, battery, pulley, drone camera  
No trespassing tape, pylons, FM radios, screens, etc.

作品のコンセプトは「見下ろして見る花火」。見上げることで感じる花火への崇高や畏怖を、見下ろすことでどのように変わるかを探る。

ドローン映像での見下ろす視点を応用し、直径4mのスピログラフ原理の回転装置で光の軌跡を描き、花の模様を作る方法を考案した。

回転は星や原子の軌道などの基本的な動きであり、火は生命の象徴と見なす。回転する火に生命エネルギーを感じさせる。

実演では立ち入り禁止区域や安全距離を設け、火花が飛び散る中、作業員の無線指示や煙の匂いを通じて観客を巻き込み、観客は周囲の建物から見下ろすようにし、また、その様子は撮影・ライブ配信された。



## Main Exhibition:

2020 "Public Divice"展, 陳列館, 東京 / R9+C9QP (version 2)

2019 "平成31年度東京藝術大学卒業・修了作品展" 上野, 東京 / 7HX+8H4V



# ATgC PROJECT

プロジェクト / 2020~2021

Date: DNA データ , CG

DNA の二重らせん構造を発見した研究者の一人であり、世界で初めて自らの遺伝情報を公開したジェームズ・ワトソン（1928-）の遺伝情報をもとに、彼の遺伝的特徴の一部を花火の種類や色にマッピングし、映像・音・写真をシミュレーションしたインスタレーションとして展開。遺伝情報に加え、その人の性格や人生を形成する上で重要な「環境要因」も考慮し、反映させた。今後、このプロジェクトはさらに発展させ、誰もが自分や大切な人を表現した花火を打ち上げることができるようになることを目指すプロジェクト型作品。東京大学生物情報修士の鈴木ゆりあ氏との協働。



ジェームズ・ワトソンの遺伝子情報を基に  
彼の花火をシミュレーション制作した映像



ジェームズ・ワトソンのハプロタイプ値をアルゴリズムにかけ、  
カラーパターン化したもの

## Main Exhibition:

2020 "次元の衝突点" 展, The 5th floor, 根津, 東京 (Collaborated with 鈴木ゆりあ)

# おとずれなかったもう一つの世界のための花火

花火パフォーマンス, インスタレーション / 2022

Data: 花火 (約 1,300 shots), drone camera \*2, tubes for fireworks, LED multi-monitor, monitor display

日本の花火大会は歴史的に「祭り」と「鎮魂」という相反する意味を持ち、その両面で繁栄してきたことが知られている。COVID-19 によって 2020 年までに中止される日本の花火の時間的・地理的データを収集・分析し、あったかもしれない別の世界を想起させ、失われた祭りを称える花火を実際に制作し打ち上げた。



2 万㎡の田んぼに花火で日本の形が浮かび上がる



横から見た花火様子



田んぼに設置された花火の様子



花火制作過程の様子

Main Exhibition:

2018 "Culture Gate to Japan" 羽田空港第2ターミナル, 東京

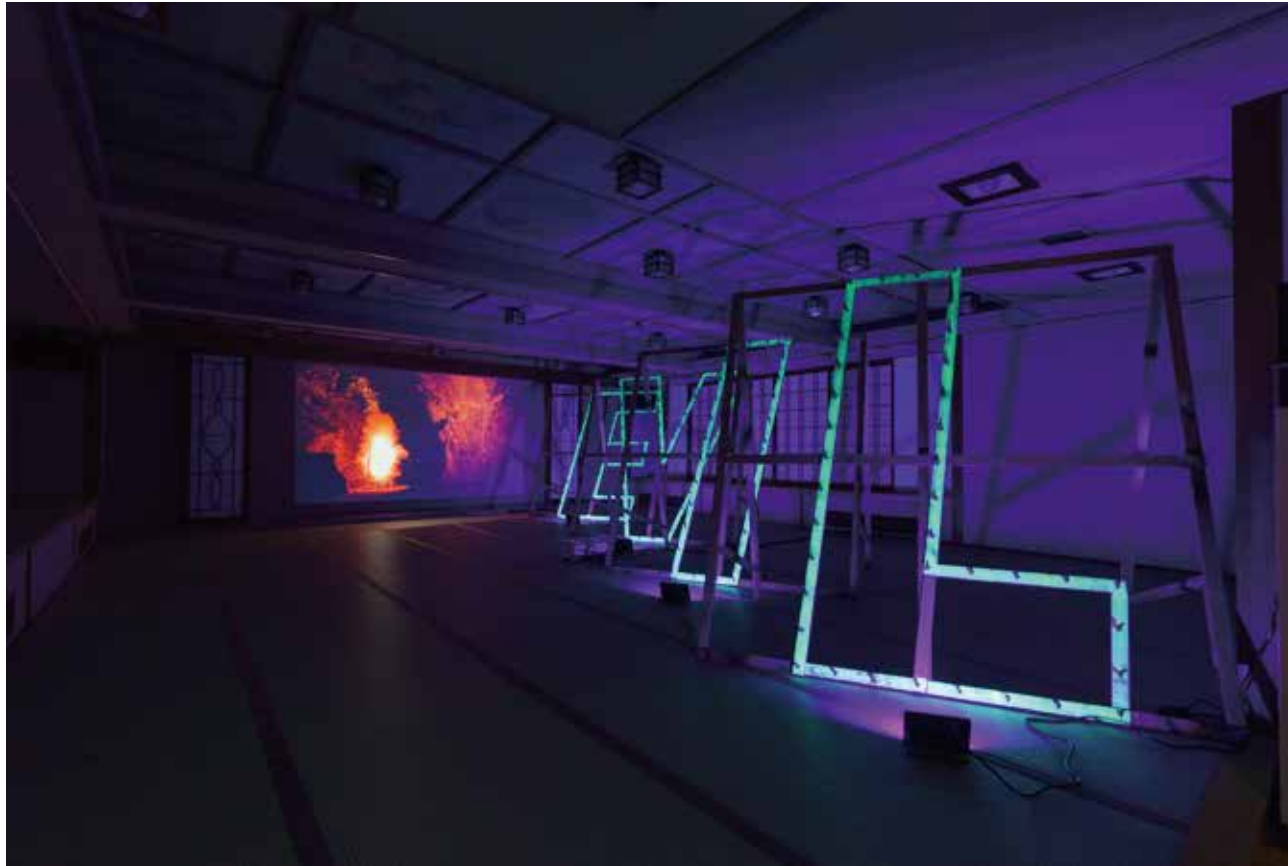
# LIVE/EVIL

花火パフォーマンス・インスタレーション / 2022

**Date:** 花火 (lance red to blue 1min 168shots and fuses) ,  
wooden frame, phosphorescent paint , 4 black lights, projector

L/I/V/E も文字は 実際に花火を取り付けた木枠である。ブラックライトに照らされると、花火の焦げ跡が黒く浮かび上がる。

日本の花火には、生命（LIVE）を肯定する「鎮魂」「平和への祈り」の意義があり、同じ火薬でも憎しみ（EVIL）から生まれる戦争では、生命を否定する武器にもなる。リニューアル最後となるホテル ニュー・アカオの絶景でそれぞれの文字が花火で光を放った。



Installation view "LIVE" and "EVIL"

©ATAMI ART GRANT 2022

Photo: Naoki Takehisa



**Main Exhibition:**

2023 "ATAMI ART GRANT 2022" ホテルニューアカオ, 熱海, 静岡



$$L = \sum_{i=1}^N t_{\text{刹那}}$$

花火パフォーマンス・インスタレーション / 2025

Date: 花火 (星 8mm 100 個, 導火線, 他), 室内花火

wooden frame, phosphorescent paint, 2 black lights, モニター

東池袋一区画の建築群 (全 6 棟) を会場に開催された「150 年」展での作品。

150 年前に制定された義務教育の基となった学制。しかし女子の就学率は昭和初期まで低く、女性は家のことを行うもので教育は必要ないという当時の家庭環境より作者の祖母も小学校低学年までしか通えず、文字をのちに独学で学んでいた。その祖母の辿々しくも美しい「花」という文字を花火の一瞬の光で蘇らせた。

また蓄光塗料を塗った花火で焦げた文字は、1 時間に一度、室内花火の光で会期中照らされ、花火によってじんわりと浮き上がってくる。



Installation view

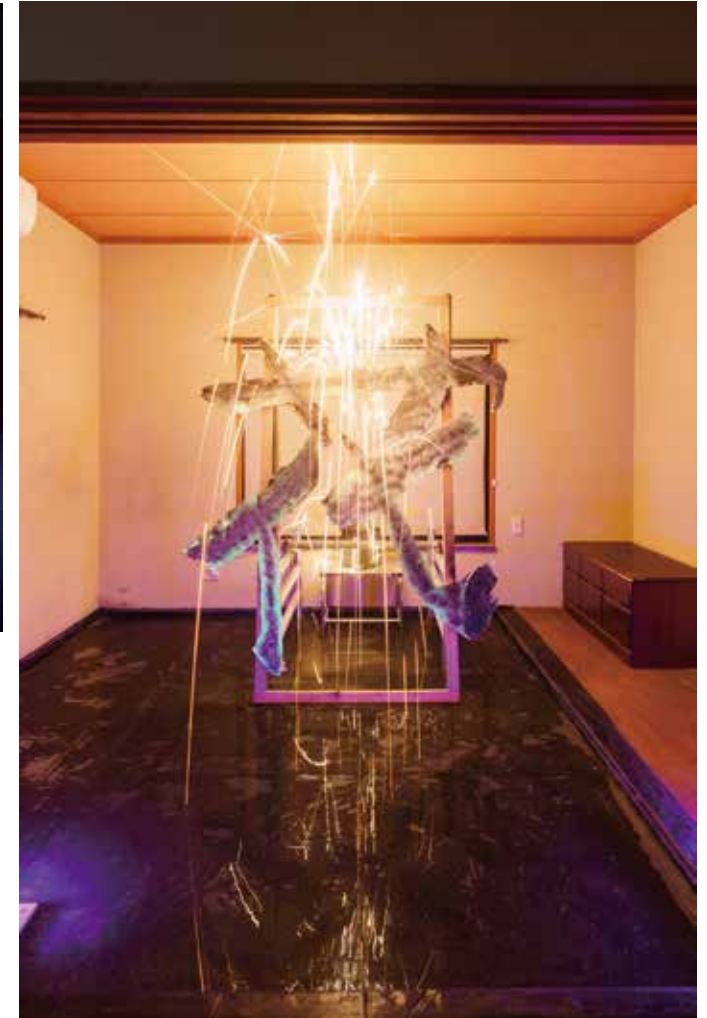


Photo: Naoki Takehisa

Main Exhibition:

2025 “150 年” 展, 東池袋一区画の建築群 (全 6 棟), 東池袋, 東京